

令和5年第3回 子どもプラン推進地域協議会 体系図に関する主な意見

資料2
令和6年3月28日
第4回子どもプラン推進地域協議会

No.	基本施策	施策名	事業番号	事業名	意見	対応
1	4 子どもの「生きる力」を育む	(1) 幼児教育の質の向上と小学校教育との円滑な接続	122	幼稚園・保育所・認定こども園・小学校等の連携強化	<p>【委員】 4「子どもの『生きる力』を育む」の事業番号122、事業名「幼稚園・保育所・認定こども園・小学校等の連携強化」について、主管課が子ども育成課となっているが、こちらに指導課は入らないのか。</p> <p>【市（回答）】 当然、こちらは指導課も絡ませていただく。現在も一緒にやらせていただいているところがあり、こちらの中でも当然一緒にやらせていただく。含めていただいて構わない。</p>	○
2	1 子どもたちが希望を持ち健やかに過ごせるまちづくり	(1) 子どもの権利を保障する取組みの推進	新規	子どもの権利侵害の救済	<p>【委員】 「子どもの権利侵害の救済」という表現について、「子どもの権利侵害からの救済」とか、「子どもの権利侵害に関する相談・救済」というような表現にしたほうがいいのではないかと。</p> <p>【市（回答）】 ご指摘いただいたとおり、「相談」や「からの」などを入れるよう対応する。</p>	○
3	4 子どもの「生きる力」を育む	(7) 不登校対策の推進と教育相談の充実	173	不登校児童生徒の多様な学びの場のあり方の検討と確保	<p>【委員】 アンケートの概要の3ページでは、中学校の先生が不登校生徒への支援について教員に聞いている。報告書の資料にも、中学校の先生からそういう声が上がっている。こういうことがすごく参考になり、第六次子どもプランでも何か生かす、さっきの第六次子どもプランの体系図（案）の4ページに173「不登校児童生徒の多様な学びの場のあり方の検討と確保」があります。この担当が教育支援課になっている。 先生方は何で学校に来ないのかわからない、それで苦しんでいる気がする。多様な学びがあるというのは、フリースクールとかがあって、そういう話はだんだんと浸透してきているが、何で来ないのかというのは毎年ずっと声としてある。 子どもプランで、そういうことがいほうへ、何かあればと感じている。</p>	-

その他 会議開催終了後意見

テーマ	意見
<p>子どもの意見表明・参加について (アンケート調査手法について)</p>	<p>【委員】 子どもの意見表明・参加について、学校で実施すべきアンケート調査の過多が問題となっていた。 本日出ていた、調査数や内容の見直し、厳選も大切だと思ったが、学校を通さなくてもできるアンケート調査の方法を模索するのも良いのではないか。 今は保護者（PTA）や、子育てに関わる地域団体もLINEのオープンチャットやメーリングリストなど、かなりのネットワークができています。 そうしたネットワークを活用してアンケートを収集する方法を考えてもいいのではないか。 学校でのアンケート実施の場合、保護者には、どんなアンケートがどのぐらい行われているか、見えづらくなっている部分もある。 そういう観点からも、保護者を通じて児童にアンケートを回答してもらうルートができると保護者にも市の取り組みが伝わる部分も出てくるのではないか。 （間にワンクッション入ると、強制力が弱まるので、回収数は減ってしまう可能性が高いと思うが。）</p>
<p>子どもの意見表明・参加について (アンケート調査手法について)</p>	<p>【委員】 クロス集計について、クロス集計の結果からどのようなことを読み取れるか、また、意味のあるクロス集計かどうか、という部分は分析が大変難しく、緻密に設計されたアンケートからでないという意味のある結果が導き出せないのではないか。 学習・生活に関する調査の設計には専門家の方は関わっているのか。 もし関わっていないのであれば、専門家に関わってもらってアンケートの設計、集計、分析を行うのが良いのではないか。 （関わって作成していらっしゃるようでしたら申し訳ありません。） この調査を今後教育計画や子どもプランの策定資料とするのと、大変重要な資料だと考える。外部委託は高額になることもあるが、今後検討いただきたい。</p>
<p>保育士・幼稚園教諭・小中学校教諭のメンタルケア及び、専門的相談システムについて</p>	<p>【委員】 保育士・幼稚園教諭・小中学校教諭のメンタルケア及び、専門的相談システムについて （保育に関しては人材育成の「定着」、学校に関しては働き方改革に関連する部分です）</p> <p>近年子どもの育ちへの支援や、保護者対応などに困難を抱える先生方増えている。 本来、園内・学校内でケアできるのが一番だが、人間関係に困難を抱えていたり、管理職次第では、ケア・回復が難しいケースなどもある。 学校ではある程度スクールカウンセラーが担っている部分もあるが、保育ではそのようなケアができる方が専門的にいるわけではないので、何か、先生方のケアをする仕組みがあれば、離職を減らすことができたりするのではない。</p> <p>【市（回答）】 市内の認可保育所については、外部の専門家である保育総合アドバイザーが各園を巡回し、園の運営上のアドバイスのほか 保護者対応が困難な場合や保育事故が発生した際のメンタルケアを含めた保育士の支援を行っている。 また、市の保育アドバイザーが巡回する中で、相談を受けたり、必要に応じた助言を行うなどのサポートを行っている。 幼稚園については、市からのアドバイザーの派遣等は行っていないが、職員研修費の補助等を行うことにより、間接的に職員への支援を行っている。</p> <p>【委員】 自分自身もアドバイザー派遣事業や他自治体からの依頼で、講師で園に行くことがあるが、より専門的・高度な判断を必要とするようなことが増えてきているように思い、（場合によっては医療的な側面を含む）他自治体では臨床心理士や精神科医、子どものことであれば保健師等が相談に乗っているなどがあるようなので、質問をした。引き続きよろしく願いたい。</p>